

大牟田市における小学校英語活動について

1 基本的な考え方

- (1) 遊びやゲームなどの体験的な活動、交流活動などを通して、英語に「慣れる」「親しむ」「楽しむ」活動を行う。
- (2) 国際理解教育の一環として行うもので、中学校の外国語教育（英語）の前倒しにならないように配慮する。
- (3) 各学校の実態に応じた学習計画のもとで、各学校で工夫しながら行う。

2 英語活動の基本方針

- (1) 子どもと教師が共に楽しめる活動とする。
 - 歌・ゲーム・スキット（劇）・挨拶など、子ども達が興味を持って取り組める活動とする。
 - 子どもの実態や興味関心に応じて選べる活動とする。
 - 英語に初めてふれる子ども達でも抵抗なく取り組める活動とする。
- (2) 「聞く・話す」を基本の活動とする。
 - 文字を用いての読む・書く活動は重視しない。
 - 文法、発音、イントネーション、アクセントなどについては柔軟に対応する。
 - 英語で相手に自分の意志を伝達するために、会話だけでなく、身振り、手振り、動作など、身体的表現手段を用いて表現させる。
- (3) コミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を大切にする。
 - 楽しく活動する中で、自然に無理なく英語を話し、出来るだけ英語に親しむようにする。

3 指導にあたっての配慮事項

- (1) 全員が参加できるよう、活動や体験を多く取り入れる。
- (2) 毎時間、どの子どもも一回は発表できる機会を与える。
- (3) 苦手意識のある子どもは、しっかり誉める。
- (4) 英語の雰囲気浸らせるため、簡単な指示や誉め言葉は英語で伝えるようにする。
- (5) 繰り返し指導する中で、自然に英語に親しませていく。
（無理に覚えさせるようなことはしない）
- (6) 音楽を通して、英語の音とリズムに慣れさせる。
- (7) 視聴覚教材や教具の有効活用を図る。
（テレビの英語番組やビデオ教材、歌のCDやカセット、絵や写真、実物・自作のものなど、視聴覚教材や教具を有効に活用する。）
- (8) 文字の指導は行わないが、出来るだけ目にふれる機会を多くし、自然と英語の文字に慣れ親しませるようにする。
（教室環境にも配慮していく）



4 英会話指導教員(ECT)の役割

※『英語活動』は、基本的には学級担任が指導する。以前は、学級担任とECTがTTで行うこともあったが、現在は、学級担任が一人で行っている。

※英会話指導教員：ECTとは、(English Conversation Teacher)の略で、日本人英語教師のことです。

(1) 学級担任の役割

- ① 児童の実態を把握し、計画を立てる。
- ② 活動中は、学習者の代表として児童と一緒に活動をする。
- ③ 英語でコミュニケーションを楽しむモデルとなる。
- ④ ゲームなどの活動が、楽しく、スムーズに行える学級作りをする。

※ECTの役割(以前の役割)

- ① 学級担任と協力しながら、活動の計画や活動内容についてアドバイスをを行う。
- ② 学校の実態に応じた教材・教具などのアドバイスをを行う。
- ③ 英語の発音、話し方、態度のモデルとなる。

5 LGTについて

※平成13年度から、市内全小学校の6年生(全学級)にECTや担任で指導を行っている小学校の英語活動の充実を図るため、外国人講師(LGT)を定期的にGTとして派遣する。

※外国人講師：LGTとは(Language Guest Teacher)の略です。

(1) LGT派遣についての基本的な考え方

- ① 原則として6年生で行っている英語活動に派遣する。
- ② 派遣回数は、1校あたり年間5～6回程度とする。

(2) LGTの役割

- ① 発音や話し方等において子ども達のモデルとなる。
- ② コミュニケーションの相手として、子ども達と直接ふれあい、インタラクション(相互関係)を高める。
- ③ インフォーマント(情報提供者)として、生きた英語や異文化情報を提供する。
- ④ 担任とTTを工夫し、英語活動をスムーズに進める。

(3) LGTと学級担任との連携

① LGT

ア 担任とTT体制で指導を行う。その際、LGTは、原則としてT2として活動を進める。

イ 子どもの実態に基づいて学習のプログラムを作成する。

ウ 子どもの実態に応じた教材・教具の準備を行う。

② 学級担任

ア LGTと協力して学習を進める。

イ 活動中は、学習者の代表として子どもと一緒に活動する。

ウ LGTと英語でコミュニケーションを楽しむモデルとなる。

エ 活動が楽しくスムーズに行える学級作りをする。



6 小学校専属ALTについて

(1) 小学校専属ALT派遣についての基本的な考え方

- ① 原則として1～5年生で行っている英語活動に派遣する。T1は担任で、小学校専属ALTはT2として授業を行うようにする。
- ② 派遣回数は、平成14年度は1校あたり年間4日程度とする。
- ③ 派遣校においては、小学校専属ALTを英語活動の授業以外でも教育活動にできるだけ参加させ、児童及び教職員とのコミュニケーションを積極的に行うようにする。

(2) 小学校専属ALTの役割

- ① 発音や話し方等において子ども達のモデルとなる。
- ② コミュニケーションの相手として、子ども達と直接ふれあい、インタラクション（相互関係）を高める。
- ③ インフォーマント（情報提供者）として、生きた英語や異文化情報を提供する。
- ④ 担任とTTを工夫し、英語活動をスムーズに進める。

(3) 小学校専属ALTと学級担任との連携

① 小学校専属ALT

ア 担任とTT体制で指導を行う。その際、小学校専属ALTは原則としてT2として活動を進める。

イ 担任が作成した学習のプログラムをもとに自分の役割を理解し、授業の準備をしておく。

ウ 子どもの実態に応じた教材・教具の作成や担任の支援を行う。

② 学級担任

ア 小学校専属ALTと協力して学習を進める。

イ 活動中は、学習者の代表として子どもと一緒に活動する。

ウ 小学校専属ALTと英語でコミュニケーションを楽しむモデルとなる。

エ 活動が楽しくスムーズに行える学級作りをする。



「聞く・話す」活動を中心に

楽しい活動を工夫する

- 歌やチャンツ
- ゲーム
- ごっこ遊び
- 劇やコント
- 読み聞かせ
- クイズ など

多様な学習形態を考慮する

- 個人
- 個人対個人
- ペア
- 個人対グループ
- グループ○チーム など

方法・会話・フレーズの工夫

バリエーションの広がり

対人関係の工夫

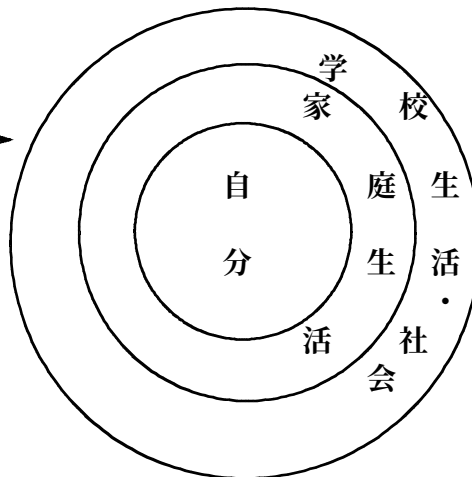
コミュニケーションの深まり

初めて英語にふれる子ども達

子どもの生活を基盤とした英語活動を

国際理解教育の一環

外国文化・習慣
との違い



言語習得理論をふまえる

教 師

- *英語を教え込まない
- *発音も無理しない
- *子どもが英語を忘れても繰り返す
- *自分も楽しみながら

楽しい英語活動

子 ど も

- *間違えてもいいんだよね
- *無理に覚えなくてもいいんだよね
- *楽しい活動だね
- *また英語活動をしたいな
- *外国の人と話してみたいな

1 子どもが生き生きと楽しむ『英語活動』とは？

子どもが楽しく夢中になり、英語に自然に親しむような体験的な活動です。

《小学校学習指導要領解説 総則編》

第3章 教育課程の編成及び実施

第3節 総合的な学習の時間の取り扱い

7 総合的な学習の時間の学習活動の展開に当たっての配慮事項

- (3) 国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときには、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること。



- 国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行う。
(中学校の外国語教育の前倒しではない)
- 小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにする。

- ・「児童が外国語に触れたり」…英語の音を聞いたり、英語を話したり、英語で歌を歌ったり、ゲームをしたり、英語で言われたことを動作で答えたりすることです。そして、何よりも大切なことは、英語に興味を持ち、英語が好きになることです。そのためには、自分の話した英語が相手に通じた喜びや、英語のリズムに合わせて動作した快感などを体験させることです。

- ・「外国の生活や文化などに慣れ親しんだりする」…挨拶や簡単な自己紹介など、言葉のやりとりを通して文化や生活習慣、ものの考え方の違いなどに慣れ親しむことです。

小学校段階にふさわしい
体験的な学習



歌

ゲーム

簡単な挨拶やスキット

ごっこ遊びなどの体験的な活動

作品交換や姉妹校交流など外国の

子ども達との交流活動

ネイティブスピーカーなどとの触れ合い

《 国際理解教育の視点 》

- ①異文化と共生できる資質や能力の育成
- ②日本人として、個人としての自己の確立
- ③コミュニケーション能力の育成
- ④国際的な連帯及び協調の態度の育成

2 どんな内容を指導したらいいの？

子どもの日常生活に身近で具体的な英語を扱います。

《題材設定の基本的な考え方》

- ① 子どもにとって身近で具体的な題材の設定
 - ・ 英語に初めて触れる段階では、挨拶や身近な物、自分自身の気持ちや行動を表わす具体的な英語・表現を取り上げます。例えば、日常の挨拶、数や色、動物、果物、気持ちや欲求の表現（～したい、～が欲しい、～が好き）など様々なトピックがあります。
 - ・ 既習経験と生活経験が豊富になるにつれて、日常の生活場面で相手に自分の気持ちや意思を伝えるような題材を取り上げます。
 - ・ 子どもが話してみたいことや使ってみたい言葉や会話を取り上げます。
 - ・ 指導する文や語は、最も基本的なもの、出来るだけ簡単な表現で、子ども達が日常生活で使うものにします。
 - ・ 自分自身に関わること→家庭・学校生活に関わること→地域・社会に関わることというように発達段階に応じて広がっていきます。
- ② 新しい内容を既に学習した内容と密接に関係を持ちながら配列するようにし、子どもの学習の負担と抵抗を和らげるようにします。
- ③ 1 語文から2 語文の会話をするなど、少しずつ会話の量を膨らませて子どもの興味・関心が持続するようにします。
- ④ 季節や学校・地域の行事なども考慮して設定していきます。
※HalloweenやChristmasなどの宗教的行事の扱いは意味やねらいを考えて、楽しさだけに終わらず、自文化にも目が向くようにします。
- ⑤ 文字を読んだり書いたりする指導は行いませんが、出来るだけ目に触れる機会を多くし、自然と英語の文字に慣れ親しませるようにします。新しいフレーズやスキットのフレーズを英文で提示しても構いません。

☆ 子ども達が、外国語という未知の言葉に心を開き、人とコミュニケーションをする喜びを感じ取っていくのをサポートするのが教師の役割です。

あれこれと心配しすぎず、まず出来ることから少しずつ英語への扉を開いてみましょう。きっと楽しい世界が待っています。



3 子どもがうきうきわくわくする活動にはどんなものがあるの？

歌やゲームなどの音声を中心とした体験的な活動を組み合わせて行います。

① 歌

歌は、授業開始時の英語活動のための雰囲気作りや活動と活動のつなぎや授業の終わりに使い、子どもの気持ちを和らげたり、気分転換を図ったりする役目を持っています。また、身体を動かして楽しみながら歌う歌が多いので、英語のリズムや発音はもちろんのこと、単語や表現などを自然に身につけやすくなります。

選曲の観点は、リズム感があり、身体を動かせるもの。

歌詞に繰り返しがあり、自然に覚えられるもの。

子どもの年齢にふさわしい内容のもの。

その時の主題にできるだけ合わせたもの。 などがあります。

始めは短く簡単な歌や日本語の歌詞でよく知っている歌から、少し長くやや難しい歌までいろいろと用意し、出来るだけたくさんの歌に親しませるようにし、歌詞を覚えることを強要したり、直訳で一語一語意味をつかませるようなことはしないのが、子ども達に楽しく歌わせるコツです。また、朝の会や帰りの会などでも歌うようにすると、より英語に慣れ親しむことが出来ます。



〔挨拶に関連する歌〕

♪ Good Morning
♪ Good morning to you
♪ Hello song I
♪ Hello song II
♪ Good Bye
♪ How Do You Do? など

〔低学年向きの歌〕

♪ Alphabet Song
♪ Seven Steps
♪ London Bridge
♪ Head, Shoulders, Knees and Toes
♪ Ten Little Pumpkins
♪ Finger Family など

〔中学年向きの歌〕

♪ Bingo
♪ Twinkle Twinkle Little Star
♪ Under the Spreading Chestnut Tree
♪ Row, Row, Row Your Boat
♪ Five Little Monkeys
♪ Mary Had a Little Lamb
♪ The Hokey Porkey
♪ Hickory, Dickory, Dock
♪ Clap Your Hands
♪ Ring A Ring O' Roses
♪ The Muffin Man など

〔高学年向きの歌〕

♪ You Are My Sunshine
♪ Old McDonald Had a Farm
♪ If You're Happy and You Know It
♪ Ob-La-Di, Ob-La-Da
♪ Country Roads
♪ When You Wish Upon a Star
♪ Edelweiss
♪ Sing
♪ It's a Small World
♪ I Have a Dream
♪ Do-Re-Mi など

☆ 英語の歌詞を見せることは構いませんが、カタカナで表記することは、英語をカタカナ発音する習慣を作るので好ましくありません。

② チャンツ

チャンツとは、英語独特のリズムとイントネーションに合わせて唱和することで、英語を学ぶ上で自然で最も有効な方法です。キーボードなどのリズムボックスを使っのジャズやロックのリズムや打楽器・手拍子などに合わせて、リズムカルに新しい言葉やフレーズ等を練習することによって、自然なリズム、イントネーション、ストレス（強勢）を身に付けることができます。高低アクセントの平板なリズムの日本語の中にいる子ども達にとっては、チャンツは楽しく興味深く取り組める活動です。質問の部分と答えの部分を教師と子ども達が掛け合ったり、単語や短い英語表現と一緒に声を出して言ったりと、いろいろな方法があります。

〈チャンツの例〉

- Do you like dogs? / Yes, I do. / Do you like cats? / Yes, I do. / Do you like snakes? / No, I don't. I don't like snakes.
 - Weather, weather, how is the weather? / It's sunny. It's sunny.
 - Bowwow, little dog, come up to me. / Bowwow, little dog, don't bite me.
 - My dog is old. How old is she? She is twenty three. But she is cute.
- *チャンツの速さやリズム・方法について、特にきまりはありません。子ども達を相手に何度か試しているうちに、徐々に教師自身にあった速さやリズム、フレーズに合った方法がつかめてきます。

③ スキット

スキットとは、ある場面や状況を設定して英語で自己表現することをねらうもので、日常のやり取りを簡単な脚本を用いて劇化して表現するものです。はじめに教師が演じてみて、それをもとに子ども同士、あるいは教師と子どもで会話をします。

また、スキットを発展させた活動として、日常生活などをもとに、登場人物、場面や台詞を子ども達に考えさせた創作スキットをすることも出来ます。その場合、既習の会話だけでスキットを構成してもよいし、多少の日本語が混じっていても構いません。

〈スキットの例〉



お客：Excuse me. Where is the office?

児童：This way, please.

Go straight and turn left.

お客：Thank you very much.

児童：You are welcome.

先生：Hello. My name is Ichiro Suzuki.

児童：Hello. My name is Mari Maeda.

先生：Nice to meet you.

児童：Nice to meet you, too.

先生：I like English. Do you like English?

児童：Yes, I do. I like English very much.



④ ゲーム

ゲームは、子ども達が大好きな活動で、学習の中心となる活動です。新しい会話を学んだり、復習したりする際の最も効果的な方法で、ゲームを楽しんでいるうちに自然とそのゲームで使っている英語を覚えていきます。誰もが夢中になって楽しめるので、言語材料の習得を促し、既習の単語や表現を使って学習する事項の確認や発展へとつないでいくことが出来ます。

ゲームを開発する視点は、全員が参加できるもの。

活動的で楽しめるもの。

競争・スピードの要素があるもの。

繰り返しがあるもの。

英語をふんだんに聞いたり話したりできるもの。

成就感があるもの。

などです。

子ども達の反応を見ながら、臨機応変にゲームができるよう、たくさんのゲームのアイディアを持っていることが必要ですが、複雑なゲームは避け、ルールは出来るだけ簡単なものにするのが、子ども達が楽しく活動できるコツです。



《種類》

- ・交換、サイン
- ・紹介、スピーチ
- ・ビンゴ
- ・じゃんけん
- ・集団ゲーム
- ・ロールプレイング（ごっこ遊び）
- ・インタビュー
- ・早取り、早叩き
- ・ジェスチャー、ボディーアクション（身振り・手振り）
- など

《方法》

- ・個人対個人（対話形式）
- ・個人対グループ（集団活動）
- ・個人対全員（スピーチ形式）
- ・グループ対抗
- など



⑤ ロールプレイング（ごっこ遊び）

ロールプレイング（ごっこ遊び）とは、ある場面において、それぞれの役割になりきって演じることです。子ども達が興味を感じるもので、子ども達の周りに身近に起こるような場面や役割の設定を行い、小道具などを作って臨場感のある雰囲気作りをすることが楽しく意欲的に活動するコツです。

例えば、保健室

病院

ファーストフード店

レストラン

フリーマーケット

電話のやり取り

道案内

など



⑥ 絵本・紙芝居の読み聞かせ

英語の絵本や紙芝居は、子ども達の大好きな教材の一つです。外国の絵本や紙芝居の読み聞かせは、英語のリズミカルな音に親しみ、異文化あふれる絵に触れることも出来ます。また、学習した内容に関係のある題材だと子ども達は推測・想像しながら夢中になって聞くことができます。

絵本を読むときは、子ども達が分かり易いようにゆっくりと絵を指しながら読んだり、教師の後について読ませたり、絵や本の内容について尋ねたりしながら読むとよいでしょう。

《子ども達に人気のある絵本や紙芝居の例》

〔Eric Carleの絵本〕

おもちゃ感覚の仕掛けとユーモアあふれるストーリーのみならず、その中にふんだんにある学習要素は子ども達の意欲を大いにかき立てます。

「The Very Hungry Caterpillar」

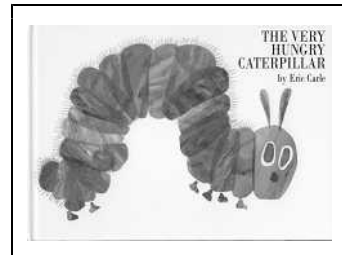
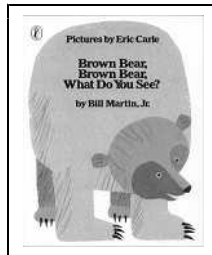
「From Head To Toe」

「Brown Bear, Brown Bear, What do you See?」

「Tiny Seed」

「Polar Bear, Polar Bear, What do you Hear?」

「Little Cloud」



〔Leo Lionniの絵本〕

独特の色彩と心温まるお話で愛されているレオ・レオニ。仲間と協力することの大切さを優しく教えてくれます。

「Swimmy」

「It's Mine」

「A Color of His Own」

「Little Blue and Little Yellow」

〔Lucy Cousinsの絵本〕

ルーシー・カズンズのカラフルなイラストと、身近な事柄を題材にした物語が人気のメイシーシリーズ。仕掛け本と普通の本があり、どちらも平易で楽しい表現が使われており、英語学習の導入本として低・中学年の子ども達に最適です。

「Maicy's Day」

「Maicy's ABC」

「Happy Birthday Maicy」

「Dress Maicy」

「Where is Maicy?」

「At home with Maicy」

「Out and about with Maicy」

など

〔その他の作品〕

「Where's Spot?」〔Eric Hill〕

「A Beautiful Butterfly」〔Nakamoto Mikiko〕

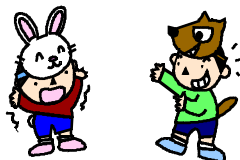
☆ 英語の絵本や紙芝居は、洋書を扱う書店やカタログ・インターネットなどの通信販売でも購入できます。また、ネイティブスピーカーが朗読したCDやカセットテープのついた絵本や紙芝居が市販されています。これらは英語で読むのが苦手という先生でも安心して出来ます。

⑦ 英語劇・ショートコント

劇やショートコントは、学習のまとめとして、子ども達が既習の言語材料を使って話の展開や登場人物や台詞を考える過程を楽しめます。また、発表するまでの過程を通して、自分たちの思いやアイディアを実現させ、成就感や達成感を味わうことが出来るものです。

《「英語劇・ショートコント」作りのポイント》

- 劇のイメージを持つ → 台本作り(場面、台詞)→ 配役決め → 練習 → 発表
 - 台詞は、見ている方も分かるように、習った会話や知っている英語表現を使います。それ以外の表現が必要な場合は、ジェスチャーを加えたり、簡単な言い方にしたり、日本語(単語など)を使ったりする。
 - 子ども任せにすると、日本語で劇を作るように複雑なストーリーと難しい台詞になってしまうので気をつけます。
 - ショートコントの場合、これまでに習ったフレーズやOne-Wordを提示して、その中から選択させてもよいでしょう。
 - 長い台詞は覚えるためにカタカナで書き留めようとするので、簡単な言い回しにし、書いて覚えることがないようにします。
 - 最初から配役を決めると、自分の台詞しか覚えようとしないので、全員がみんなの台詞を一通り言えるようになってから、配役を決めたほうがよい。また、全員が演技をするが、1人1役とせず、何人かが一緒になって同じ台詞を言ってもよいでしょう。
 - グループで協力し合って、場面や様子が分かりやすく表現できるように身振りや手振り、表情を加えながら、大きな声ではきはきと話すが、TPOに応じた声の大きさと動作を心掛けます。
 - ト書きなどの長い文は、教師が言ったり、ALTなどのネイティブスピーカーにテープに録音してもらったりなどしてもよいでしょう。
- (子どもに無理に覚えさせて言わせません)

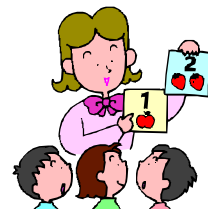


⑧ クイズ

いろいろな問題を出してお互いが当て合う活動です。教師だけが出題者になるのではなく、子どもも出題すると出題者・回答者ともに楽しく活動できます。

〈クイズの例〉

- ・英語での鳴き声や特徴でその動物を当てる。
 - ・外国や日本の有名な場所や人物、観光名所や食べ物などから国名や都道府県名を当てる。
 - ・身近な外来語を英語で発音し、外来語を当てる。 など
- ☆3ヒント(5ヒント)形式にすると盛り上がります。
- ☆早押しゲーム機を使うと、緊迫感があり大変盛り上がります。



⑨ ビデオやテレビ番組の活用

ビデオやテレビ番組の視聴は、英語活動の中心的活动にはなりませんが、これらの教材は視覚や聴覚に訴え、子どもの興味や関心を引くように工夫されており、ネイティブスピーカーの発音を繰り返したくさん聞けることができるという利点があります。ある主題の学習の復習やまとめとして見たり、ビデオ・テレビの内容をもとに授業内容（スキットやフレーズ、ゲームや発音）を組み立てたりします。

いろいろなビデオテープが市販してありますが、低・中学年には、日本や世界の昔話など、子ども達が日本語での内容をよく知っているものが向いています。習った言葉や分かった言葉がいくつあるかななどのめあてを持たせると、子ども達はより意欲的に集中して視聴します。



What's this?

Do you like
oranges?



It's an orange.

Yes, I do.
I like oranges.

4 子どもが毎回の活動を心待ちにする「年間活動計画」はどのように考えたらいいの？

7冊の実践事例集の年間活動計画や実践事例をもとに、学校の年間授業時数や学年・学級児童の実態に合わせて活用してください。

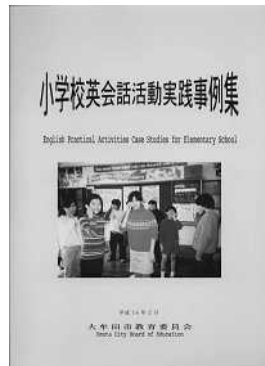


〔第1集〕

【平成12年度版】

（63事例）

学年を特定せず40時間
15分間のモジュール例
ALTとのTT例



〔第2集〕

【平成13年度版】

（71事例）

第3学年…12時間
第4学年…12時間
第5学年…12時間
第6学年…35時間



〔第3集〕

【平成14年度版】

（140事例）

第3学年…35時間
第4学年…35時間
第5学年…35時間
第6学年…35時間
キッズタイム（朝の
活動の活動例）



〔第4集〕

【平成15年度版】

（117事例）

第1・2学年…10時間
第3・4学年…15時間
第5学年…20時間
第6学年…35時間
ALTとのTT活動案
キッズタイム（朝の
活動の活動例）



〔第5集〕

【平成16年度版】

（22事例）

☆『文字指導』につ
いての実践事例

第1・2学年…2時間
第3学年…5時間
第4学年…7時間
第5学年…4時間
第6学年…2時間



〔第6集〕

【平成17年度版】

（16事例）

☆『文字指導』につ
いての実践事例

第1・2学年…2時間
第3学年…1時間
第4学年…3時間
第5学年…3時間
第6学年…1時間
その他…4時間

- 第2・3集は、第3学年から『英語活動』を始めた場合、第6学年までの4年間の活動内容・主題を児童の興味・関心、発達段階に応じて、発展性・系統性を持つように作成しています。
- 第5・6集は、小学校段階の児童が、無理なく抵抗なく英語の文字を読めるようになるために、『文字指導』についての実践事例を集めました。
- 第4・7集は第1学年から第6学年までの6年間の活動内容・主題を児童の興味・関心、発達段階に応じて、発展性・系統性を持つように作成しています。
- 新学習指導要領では、学習活動の特質に応じて、時間割を一層弾力的に編成することが出来ます。従来通り45分を一単位時間として活動を行うことも出来るし、一単位時間の内容を3コマに分けて15分を1モジュールとした活動も考えられます。

5 子どもがうきうきわくわく活動する授業の構成はどうしたらいいの？

1 単位時間の基本的な流れは

〔挨拶→ウォームアップ/復習→練習→ゲーム→まとめ→歌→挨拶〕です。

《授業展開のポイント》

- ・ 繰り返しながら自然に覚えさせます。
- ・ 覚えることを強要しません。
- ・ 子どもがスムーズに活動に入っていけるように、ウォームアップを考えます。
- ・ 教師が意図している語句や表現が繰り返し出てくるような活動を用意します。
- ・ 子どもが飽きないようにするために、活動の内容や方法を変えながらも同じ指導内容を繰り返すように工夫します。
- ・ 子どもがじっとして教師の話を聞くだけの授業は避け、子どもが実際に身体を動かしながら何かをするような活動にします。
- ・ 子どもの活動への参加を積極的に促すようにするために、子どもを誉める機会をふんだんに持つようにします。
- ・ 子どもの興味関心の状況を把握しながら、繰り返したり、省略したり、分割したり、付け加えたりできるように柔軟性を持たせます。
- ・ 年間活動計画に毎月の単元の言語材料を一覧表にして、量や難易度を確認します。
- ・ 活動案にも毎時間の言語材料を示すようにします。
- ・ 英語の雰囲気にならせるため、また、英語活動が楽しくスムーズになるように、簡単な指示や誉め言葉は英語で伝えるようにします。



《指導上の留意点》

- 指導する教師は、子ども達がより多くの英語をインプット出来るように、出来る限り英語を使って授業を進める方が望ましいのですが、All in Englishの授業をする必要はありません。
 - ・ 挨拶や簡単な指示は活動が楽しくスムーズになる英語（教室英語：Classroom English）で行います。この時、身振り・手振りなどの動作を加えながら英語で指示すると、子ども達は内容を自然と理解出来るようになります。
 - ・ 英語で説明できない時は、日本語で説明しても構いません。
- 子ども達が過ちを恐れず自信を持って伸び伸び発話するよう、たとえ間違えても訂正を急がず、訂正する場合にはさりげなく訂正するようにします。

(例) ①T: What animal do you like? ②T: What's the matter?
C: I like a cat. C: I have headache.
T: Oh, you like cats. T: Oh, you have a headache.

6 外国人講師とT Tを組む時はどうしたらいいの？

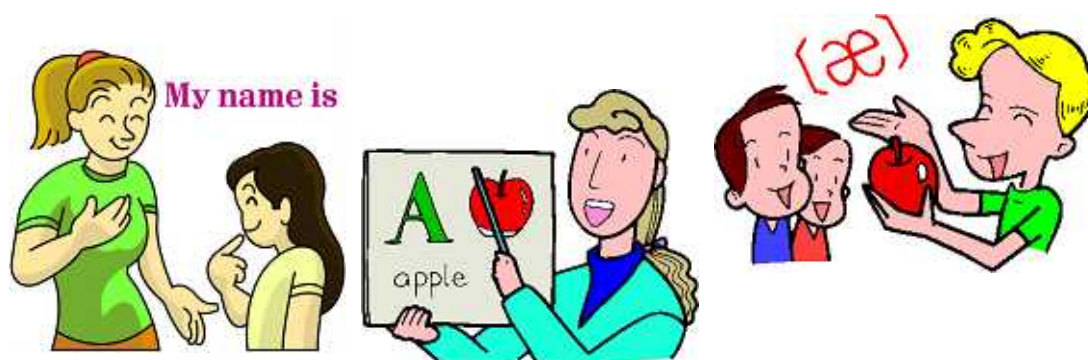
子ども達にとって楽しい活動と一緒に考え、外国人講師の個性やよさを生かすようにします。

《学級担任の役割》

- ① 児童の実態を把握し、外国人講師と協力して学習計画を立てます。
- ② 児童の実態に応じた教材・教具の作成や準備を行います。
- ③ 活動中は、学習者の代表として児童と一緒に活動をしします。
- ④ 外国人講師と英語でコミュニケーションを楽しむモデルとなります。
- ⑤ ゲームなどの活動が、楽しく、スムーズに行える学級作りをしします。

《外国人講師の役割》

- ① 学級担任と協力しながら、活動の計画や活動内容についてアドバイスをを行います。
- ② 児童の実態に応じた教材・教具の作成や担任へのアドバイスをを行います。
- ③ 担任が作成した学習のプログラムをもとに自分の役割を理解し、授業の準備をしておきます。
- ④ 英語の発音、話し方、態度などのモデルとなります。
- ⑤ コミュニケーションの相手として、子ども達と直接ふれ合い、インタラクション（相互関係）を高めます。
- ⑥ インフォーマント（情報提供者）として、生きた英語や異文化情報を提供します。
- ⑦ 英語活動をスムーズに進めるために、学級担任とのチーム・ティーチングの方法を工夫します。



※ 学級担任と外国人講師は、活動の計画、役割、教材・教具などについての打ち合わせを事前に行っておきます。打ち合わせの場合は、同時に生の英語に触れ、コミュニケーションの場として活用できます。

7 どんな教材・教具を用意したらいいの？

活動内容に合わせて、楽しく、しかも学習効果を高めることができるようなものを選択・作成します。

〔基本のアイテム〕

- ・キーボード（リズムボックス）
- ・絵カード
- ・歌（カセット・CD）
- ・絵本
- ・紙芝居



〔楽しいゲームに役立つアイテム〕

- ・野菜や果物の模型
- ・ぬいぐるみ
- ・カレンダー
- ・写真
- ・市販のゲーム
- ・カタログ
- ・レストランなどのメニュー表
- ・写真雑誌
- ・ちらし、広告
- ・カードリーダー
- ・福笑い
- ・色つきシート
- ・ボール
- ・玩具（ハンマーやハエたたき）
- ・（携帯）電話機の模型
- ・双六
- ・早押しピンポンブー
- ・ドル札の模型
- ・カルタ用カード
- ・さいころ
- など



〔視聴覚教材〕

- ・市販のビデオ〔日本や世界の昔話など子ども達に馴染みのあるものやドラえもんシリーズ、ルーシー・カズンズのMaicyシリーズなどがあります〕
- ・テレビ番組（えいごリアン、セサミストリートなど）



教材の選択・作成で大切なことは、子どもが興味・関心を持って活動に取り組めるかということと同時に、その教材・教具を使用することによって、学習目標を達成することが容易になるかどうかという視点が重要です。

また、生活に根ざした言葉を取り上げますので、日常生活で目にするいろいろなものが教材として利用することが出来ます。

8 活動の評価はどうしたらいいの？

児童のよい点、活動に対する意欲や態度、頑張りなどを評価します。

評価は、子ども達の学習状況を的確にとらえるとともに、その内容を次の活動へと生かし、支援を工夫していくために行います。英語活動に関しては、「英語に慣れ、親しみ、楽しむこと」「聞く・話すというコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を大切にする」を基本に据えているので、技能修得や知識・理解面からの評価は行いません。授業の終わりにその日の活動をふり返らせることで、子ども自身の意欲面を評価でき、子ども達の内面を知ることが出来ると共に、次の授業や活動計画の修正などに生かします。

① 子どもの自己評価・相互評価

授業の終わりに挙手などによる評価の他、毎回の授業終了時や数回ごとに「振り返りカード」などで自己評価を行います。「楽しむ」「聞くこと」「話すこと」の要素を押さえた項目を設けます。

相互評価は、自己評価と合わせて、感想発表などでお互いのよいところを素直に認め合いながら、評価していきます。

② 教師の観察による評価

学級担任が中心となり、子どもの活動の取り組みの様子を観察し、活動計画や授業改善に生かします。



【評価カード例】



英語活動ふりかえりカード

年 組 名前

月 日 今日の活動内容〔 〕

- ☐ 楽しく活動できましたか。 (^0^) (^_^) (' _ ')
- ☐ 先生や友だちの話をしっかり聞くことができましたか。 (^0^) (^_^) (' _ ')
- ☐ 進んで話すことができましたか。 (^0^) (^_^) (' _ ')
- ☐ 音楽やリズムに合わせて声を出したり歌ったりしましたか。 (^0^) (^_^) (' _ ')
- ☐

*今日の活動の感想を書きましょう。

9 校内の環境整備はどうしたらいいの？

英語の雰囲気浸らせるための教室や掲示物を作りましょう。

子ども達が、英語により一層の興味・関心を持つようにするためには、教室や廊下の掲示物などの環境整備をすることが大切です。また、体を動かして伸び伸びと活動できるように、空き教室などを利用して、「英語活動」用の部屋を設定するとよいでしょう。その部屋に入ったら、自然と英語を学習したくなるような雰囲気を作ることです。

○「英語活動」用の教室の整備

- ・ 机や椅子を取り除いたオープンスペースが向いています。また、床に座ることが多いので、出来ればカーペットを敷いておくと、より活動しやすくなります。
- ・ 壁には、世界地図やポスター、世界の主要都市の時差を表す時計、世界の子どもの写真や交流した人々の写真や民芸品などを掲示しておくと、英語の雰囲気に浸り、英語により一層の興味・関心を持つようになります。
- ・ 担任の先生がいつでも使えるように、教材・教具を整理して保管できるようにしましょう。



〔教室前面〕



〔教室背面〕



〔棚の中〕



〔教室横の廊下〕

【銀水小学校の「国際交流室」の例】